



2022(仏暦2565)年 8月号 (第131号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



■住職法話

あおきしんもん しの
青木新門さんを偲ぶ

■浄土真宗 (新) 仏事のイロハ

■本願寺の本

心のポケットに～言葉の花束を

■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2021(令和 3)年	23 回忌	2000(平成12)年
3 回忌	2020(令和 2)年	25 回忌	1998(平成10)年
7 回忌	2016(平成28)年	27 回忌	1996(平成 8)年
13 回忌	2010(平成22)年	33 回忌	1990(平成 2)年
17 回忌	2006(平成18)年	50 回忌	1973(昭和48)年

住職 法話

今月の法語

我が身を深く
悲しむ心に
仏法のことばが
響く

「おくりびと」青木新門さんを偲ぶ

この八月六日、作家の青木新門さんが亡くなられました。ご自身が発信されるフェイスブックの更新で突然知らされました。
青木新門さんと言っても知らない方が多いと思います。しかし、映画「おくりびと」と言えばお分かりになるでしょう。本木雅弘さんが納棺師を演じられ多くの映画賞をと

られて話題になりました。その「おくりびと」の原案になった「納棺夫日記」という本を書かれたのが青木新門さんです。経歴などはお調べ頂ければと思いますが、映画「おくりびと」が話題になった当時、青木新門さんの講演を聴聞する機会を頂き、二〇一〇年頃の寺報の法話にも度々、私もご紹介していました。その「納棺夫日記」により

まずと、葬祭業の仕事に関わる中で、迷いいつしか宗教書を手当たり次第読むようになっていた。その中で、不思議な光に出会い最も明解な回答を与えてくれたのは、親鸞であると仰ります。とにかく親鸞さまのお言葉を通してお話しをされる方でした。講演では「命のバトンタッチ」と題して、常に「命」に向き合ったお話しを頂きました。顧みますと、その講演を機に、私自身のご法話の向き合い方にも大きな変化があったほどです。僧侶として転職になった師とも言えます。当時はブログ、後にフェイスブック上に、ほぼ毎日欠かさずことなく仏さまのことばをお伝え下さった方でした。特に、フェイスブックは「念仏広場」と称され、念仏申す者の場として、常に念仏が飛び交っていました。

他力の信心うるひとを
うやまひおおきによるこべばすなはちわが親友ぞと
教主世尊はほめたまふ
親鸞さまの和讃です。「他力の信心を得る人は、仏の教えを敬い信じて喜ぶので、釈尊はこのものを、私のまことの友である、とお褒めになつている。」亡くなられる一ヶ月ほど前の、「念仏広場」の最後の仏法のことばでした。仏法、特に親鸞さまのことばを時事にも合わせて、ほぼ毎日お伝え下さいました。拝見するたびに、「我が身を深く悲しむ心に仏法のことばが響く」瞬間でもありました。有難うございます。南無阿弥陀仏



浄土真宗

⑧ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて―

「遺骨安置と勤行」

中陰法要もお仏壇の前で行います

火葬の後、自宅に戻ってきた亡き人の遺骨は、葬儀業者らが用意した中陰壇に安置することになります。中陰壇には三具足や供物が飾られ、ほかに遺影が置かれたりします。ついで遺族の目もそちらに向きがちです。

遺骨（お骨上げ）や初七日のお勤めでお参りするときに、この中陰壇の方を向いて座られており、壇上のローソクや線香にはきち

んと火がつき、花も盛りだくさんに飾られ、さらにおリンまで用意されていることが少なくありません。

しかし、お仏壇の方にはローソクがなく、花も枯れているといった調子で、ほとんど手つかず状態なのです。

そのお仏壇の前で私がお勤めしようとするものですが、家の方は慌てるご同時に、何かげんそつな顔をされます。

おそろく、そうした方がた



は、お勤めは遺骨の前で行い、そのお経が亡き人への追善回向（善を積んで故人に振り向ける）になると思っておられるからでしょう。

確かに「中陰」の習俗に基づけば、そう思うのも無理はないことかもしれません。すなわち習俗では、死後四十九日間、死者の行くべき次の世界（地獄や天界などの六道）が決まらず、七日ごとに冥界の裁判官による審理が行われると言います。その裁判

の日の前に法要を勤め、その功德を死者に振り向けて、よい世界に行ってもらおうというのが、追善の考え方です。

しかし、浄土真宗では、阿弥陀さまのはたらきによって、亡き人は死後ただちに浄土に生まれ、追善の必要がない仏さまになっておられる

のです。また、仮に、まだ迷っているとしても、私たち凡夫に善を振り向けてよりよい世界に行かせる能力は何一つ備わっていません。浄土に生まれさせることができるのは阿弥陀さましかおられません。どんな時でも仰ぐべきは阿弥陀仏なのです。

お仏壇の前でお勤めするのは、そういう心からです。なお、中陰壇はお仏壇の横に設けるようにします。

「浄土真宗 ⑧ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



～本願寺の本～

「心のポケットに～言葉の花束を～」

外松太恵子 著

本願寺出版社 刊 110円(税込)

短いけれど心に響く13篇の詩に寄せて、著者が、あたたかくも凛とした言葉で語る。子どもたちの心のそばに、大人の心のポケットの中に……。『本願寺新報』に連載された「心の花束」より。

[本願寺出版社ホームページより]



携帯サイト

携帯電話からも商品をご注文いただけます。
QRコードからアクセス→



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要

立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day

親鸞聖人のご命日です ご参拝ください

浄土真宗本願寺派
龍谷山 本願寺

編集後記

お盆の月です。今年も、昨年のお盆以降に亡くなられた方の初盆(新盆)法要の依頼があります。◆「仏事のイロハ」にもありますが、まだ納骨をされていなかったり、お仏壇も揃えられなかったといった様々な事情もあり、中陰壇しかないお宅もあります。中陰壇であっても、ご本尊もしくは南無阿弥陀仏の名号を置いて参拝させていただきます。◆わかりやすくしますと、「お骨になられた故人」を拝むのではなく、「仏さまとなられた故人(仏)」を拝むということです。

Instagram



Twitter

